

2022年度 北陸ESD推進コンソーシアムの活動予定

1. 主幹団体

金沢大学

2. 事務局

金沢大学附属**教職総合**支援センターに事務局を置く。(名称変更)

3. 今年度の運営

(1) SDGs・ESD 推進検討会議（コアメンバー会議） 月1回 （事務局主催）

(2) 北陸 SDGs・ESD 推進連絡協議会 年3回 （石川県ユネスコ協会主催）

(3) 主な研修会・交流会・報告会（オンライン）の開催予定

①SDGs 達成に向けたESDのeラーニング教材制作協力者交流会 8月19日（金）（教員等）17:00~18:30

変更②SDGs 達成に向けたeラーニング教材開発（7月から1月）詳細は下記の活動内容参照

新規③SDGs 達成に向けたESDに関するオンライン講義の開催（オンライン：オンデマンドとライブのハイブリッド）

オンライン講義：対話型（2022年9月から2023年1月の期間において4回から5回開催）

③北陸（+信州など）実践交流会 12月3日（土）（教員等）14:00~16:00

④石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動学習活動 1月21日（土）14:00~16:00

⑤2022年度北陸ESD推進コンソーシアム成果報告会 2月11日（土）14:00~16:00

⑥富山県、福井県ESD交流会 2月

(4) HP、フェイスブック、教材・講座の管理と運用 （eラーニング教材の整理・ESDに関するオンライン講義の案内）

(5) SDGs 達成に向けたESDを実践あるいは実践しようとする教員、学校等への支援

①SDGs・ESDの専門家（大学教員や実戦者等）を支援コーディネーターとして学校や研修会等へ派遣する。

②北陸におけるSDGs達成に向けたESDの教育実践や研修等に関する要望に対応して、コーディネーターを派遣したり教材提供したりするなどの支援を行う。

4. 今年度受託している補助金及び概要

(1) 令和4年度ユネスコ活動費補助金（金沢大学）

—SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業—

1. 補助事業名称

SDGs 達成に向けたeラーニング教材開発及び**コミュニティづくり**による教員等の**専門能力開発**

2. 事業の目的・概要

今後3年間で、SDGs 達成に向けESDを実践しようとする教育委員会や学校の教員等を対象としたeラーニング教材（実践編・教育経営編）の開発・活用を進め、そのプロセスにおける研修機会の創出と**主体的な研修システムを構築し、開発した教材や研修システムの全国的な展開を図る。また、eラーニング教材制作者を中核に教員や学生・院生、研究者等が学び合うコミュニティを教員等の主導で形成する。**また、1年ごとに「平和と非暴力の文化」や「気候変動」などを喫緊の共通課題として設定する取り組みも進める。これらの事業によって、ホールスクール・アプローチに向けたカリキュラム・マネジメント力や教育経営力など教員等の専門能力開発と、SDGs 達成に向けたESDの授業実践により「開かれた教育課程」「探究的な学習」の実現に貢献する。また、成果を全国に発信し、SDGsの達成に向けた人材育成の優良事例として本事業の周知を図る。

(2) 令和4年度の4つの事業

【教材：SDGs 達成に向けたeラーニング教材開発事業】（変更）

令和4年度には、ホールスクール・アプローチを進める上で必要な、教員や教員を目指す学生向けのカリキュラム・マネジメント力に加えて、教育委員会、校長など管理職層向けの教育経営力を身に付ける下記の5つのカテゴリでeラーニング教材を、社会教育や企業等多様なステークホルダーとの連携を視野に入れて制作・活用を開始する。またeラーニング教材制作プロセスにおける主体的な研修機会創出を充実する。

・教材① SDGs・ESDを推進するホールスクール・アプローチにおけるカリキュラム・マネジメントや校外の諸団体と

のパートナーシップ確立の教育実践を内容とし、教育（学校）経営力の育成に資する。

- ①—1 地域のSDの課題解決を地域住民や専門家と連携して取り組む教育（授業）実践
- ①—2 地球規模の課題の解決や世界とのつながりを理解する教育（授業）実践
(国内外との学校交流：オンライン交流等)

①—3 共通課題に関する教育（授業）実践（平和と非暴力の文化、気候変動、持続可能なライフスタイル、文化多様性及び文化遺産などから選定）

- ・教材② SDGs達成に向けたESDによる探究的で対話的な授業への革新を目指す授業実践のプロセスを内容とし
新規 カリキュラム・マネジメント力の育成に資する。(SDGsによる「本質的な問い」や「セントラル・アイディア」などを明確にすることで、教科等の授業がより「対話的」「探究的」になることに気づくと共に、このような授業の革新に取り組む教師の思いに触れ、SDGs達成に向けたESDとして教材開発と授業づくりの意欲を喚起する。)
- ・教材③ 学校と社会教育施設や企業、専門機関等と連携したSDGs・ESDに関わるプログラム開発によるホールスクール・アプローチの教育実践のプロセスを内容としてカリキュラム・マネジメント力、教育経営力の育成に資する。
- ・教材④ SDGs達成に向けたESDを進めるホールスクール・アプローチの教育実践と、そこに向かうプロセスの**実際新規**を内容として、学校管理職等の教育経営力の育成に資する。
- ・教材⑤ 教員を目指す学生や大学院生が、学校現場で進むSDGs達成に向かうESDの教育実践や実践者に学び、その過程をeラーニング教材化することで、SDGs達成に向かうESDの意義や価値を深く理解する取り組みを内容として、SDGs達成に向けたESDを進めるユース層の育成に資する。
 - ⑤—1 SDGs達成に向うESDの授業を実践する気鋭の授業実践者に学ぶ
 - ⑤—2 先進的にホールスクール・アプローチを進める学校に学ぶ
 - ⑤—3 SDGs未来都市の教育委員会が進める教育施策等に学ぶ制作協力校におけるeラーニング教材（実践編）の制作プロセスにおいて、研修機会の創出を支援するとともに、制作協力者等の個別の相談に応じていけるコミュニティを構築する。また、eラーニング教材（実践編）を視聴、活用後のフィードバックを分析できる体制を整える。

新規【ESDコミュニティ創生支援事業】

令和4年度は、管理職を含む教員等が主体的に専門性開発を開発することを支援する次の3つのコミュニティ創生の準備期とする。SDGs達成に向けたESDを授業として実践している教員やホールスクール・アプローチで学校づくりを行っている校長等の多様で個性豊かな魅力的な教員としての成長ぶりを、その教育実践を身近に感じたり、それを支えるパートナーシップの存在に気づくことで、これからの教員等としての成長に寄与する校内外のコミュニティ形成に関心を高める。

①eラーニング教材制作協力者を中核としたSDGs達成に向けたESDの授業実践を学び合う授業者や研究者、学生等の開かれたコミュニティ（新規）

これまでのeラーニング教材制作協力者を中核に、研究者や実践者を招聘した学習会や実践交流会を重ねながらコミュニティを周知すると共に、コミュニティに対する期待や要望、配慮事項などを集約し、安全安心に参加できるSNS上の仕組みについて、専門業者にも参加いただき作り上げる。また、オンデマンド型のeラーニング教材とは別に、ライブで参加者がESD実践や研究成果等の講義を受ける特別授業も開講し、オンラインで学ぶ機会も組み込む。そこで使われた教材は、その後オンデマンド型のeラーニング教材に移行する。この様に、コミュニティ内での学習会における実践報告や講義内容をeラーニング教材化し、コミュニティメンバーが利用できるようにすることを目指して準備、試行する。年度後半には、更に試行を重ね問題点を明確にし、令和5年度の正式発足に備えたい。

②北陸3県における児童生徒がESD学習に関して交流したり成果やデータを報告・共有したりする児童生徒のコミュニティ

北陸の各県で行われている児童生徒の発表会、交流会について、より対話型で開かれた形に移行する。北陸以外の国内外の児童生徒の参加や地域や保護者にも開かれた環境をつくりたいと考えている。また、学習過程の中で恒常的、定期的に学校や行政区域を越えて児童生徒が互いの情報を交換・共有したり、学び合ったりできるようなコミュニティを創生する。

③北陸のSDGs未来都市における人材育成について学び合い交流するコミュニティ

また、北陸には11のSDGs未来都市が認定されており、これらの未来都市における教育委員会や学校、教員などの取り組みが交流・共有され連携するようなコミュニティの創生にも努力したい。

【教員養成支援事業】

- ・これまでに作成されたSDGs・ESD実践ガイドブックやeラーニング教材（基礎編）、eラーニング教材（実践編）を活用した教員研修を北陸3県の学校等において、集合研修、個別研修、対面型、オンラインなど実情に応じて進める。
- ・教育委員会、地域のユネスコ協会、JICAや国連大学などの国際機関、企業、NPO等と連携したSDGs・ESD研修会、交流会等を開催する。
- ・金沢大学等における学生を対象とするESD授業において、SDGsの達成という視点に立ったカリキュラムの充実を図る。また、教員養成課程、教職大学院課程においてもSDGsを念頭に置いたESD授業の可能性を探る。
- ・ユネスコスクールを中心として研修会や公開授業への講師派遣等をとおして、SDGs・ESD推進に向けた指導助言を行う。

【周知普及事業】

北陸内での実践共有と拡大を進め、特にSDGs未来都市10都市と連携を強化し、それぞれの人材育成のニーズに対応した支援を行うとともに、各都市の優れた教育実践をeラーニング教材化、共有化できるよう進める。

更に、本事業の報告会や中部地方ESD活動センターによる学び合いフォーラム、日本ESD学会やHESDの研究発表会、ユネスコスクール全国大会等を通じて、ESD、SDGs推進に向けた人材育成の優良事例として本事業の周知を図る。また、本事業の実施に当たっては、関係大学、国連大学サステナビリティ高等研究所石川金沢オペレーティング・ユニット、JICA、ACCU等の専門機関、ESD関連団体、教育委員会、学校、地域のユネスコ協会や民間企業等との連携を図るとともに、中部地方ESD活動支援センターとの緊密な連絡調整の下で本事業を実施する。

また、ホームページやリンクさせているフェイスブック、YouTubeチャンネル「北陸esd」などで、eラーニング教材や北陸の情報を発信するとともに、前出の関係団体等とのリンクを図り北陸から情報の共有を進める。

未来都市10都市、大学、国連大学OUJK、JICA、学校、教育委員会、社会教育施設、企業、団体などと連携し、上記事業内容を協働して行うとともに実践を共有する。

5. その他

- (1) ESD地域拠点及び北陸未来都市との連携を進める。
- (2) 北陸3県のユネスコスクール加盟申請校を支援する。

6. 年間計画

5月～7月	北陸3県における調査・説明活動
7月	事業開始
7月～1月	各種事業の展開
7月下旬	第1回北陸SDGs・ESD推進連絡協議会
8月19日（金）	eラーニング教材制作協力者交流会
8月～1月	SDGs達成に向けたeラーニング教材制作及びESDに関するオンライン講義の開催
12月3日（土）	北信越実践交流会（仮称）
1月21日（土）	石川県SDGs・ESD児童生徒学習活動交流会
1月下旬	事業の自己評価会
2月11日（土）	北陸ESD推進コンソーシアム成果報告会 第3者評価委員懇談会
2月中旬	富山県、福井県においてESD交流会
2月下旬	文科省への報告書及び次年度の企画書提出